

東洋大学 vs 産業能率大学

4月16日(水)
15:30K.O.
海老名陸上

昨季1部を経験してきた東洋大と、関東リーグ初挑戦の産能大。立場はまったく逆の両チームだが、いずれも連敗スタートとなっている。連敗を止められるのはどちらか。

日大、東学大に連敗してしまった東洋大だが、スコアはいずれも0-1。少なからず主要メンバーの入れ替わりがあった今季だけに、まだゲーム感覚がフィットしていないという要因もあり、それほど神経を尖らす必要もないだろう。それでも、無得点での連敗ということでムードが良くないのは確かだ。シュート数も2試合で10本と、攻め切れていない現状が表れている。前節の東学大戦は、31分に相手のドリブル突破への対応でPKを与え、前半わずか1本の被シュートを決められた。「ペースを握っている中でボールを取られ、少ないチャンスを決められた。内容的には徐々に向上している」(古川毅監督)。今節は相手の守備が厚いことも予想されるが、とにかくシュートチャンスを多く作り出したい。

一方の産能大は前節、神大に0-4で敗れ、2試合で計8失点を喫しての連敗スタート。関東リーグの洗礼を浴びていると言ったところだろう。前節は、強力な攻撃力を持つ神大に押し込まれ、前半で3点を失った。それ

でも、隙を狙って反撃態勢に入ろうという意識も見られ、後半は相手に引けを取らないシュート数も記録。「力の差はあったと思うが、相手に向かっていく気持ちや自分たちからプレーしようとする意図は見えた。ここから成長していければいい」と加藤望監督が話したように、少しずつ自分たちの時間帯を長くしていくことが重要であろう。何事も経験と受け止められれば、いつか道も開けるはず。積極的な守備から、攻撃につなげたい。
＜昨年の対戦＞リーグ戦での対戦はなし

東洋大		産能大	
30. 水落	28. 仙頭	7. 小池	25. 渡辺
4. 郡司	10. 平石	34. 越智	4. 楠元
15. 小山		20. 斎藤	3. 藤原
1. 浅沼		31. 安田	
14. 小山		11. 青木	33. 浜下
5. 田口	11. 佐々木		
7. 斉藤		6. 遠藤	
16. 石坂		12. 齋藤	

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.3
編集：五味亜矢子 印刷：(一財) 関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



5チームが連勝飾る!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグの第2節が行われた。6試合すべてが、開幕戦の勝利チームと敗戦チームの対戦となったが、そのうち5チームが連勝。特に、神大は4-0で産能大を下し、2試合で9得点と開幕からいきなり攻撃力を爆発させている。日体大も平国大に2-1で競り勝ち、2試合で6得点。法大は拓大に3-0、東学大は東洋大に1-0で勝利し、この2チームはまだ無失点だ。そして関学大は東農大に90分の得点で勝ち越し、昨季に続き連勝スタート。また、青学大は日大を2-1で下し今季初勝利を飾った。
今節はミドルウィークの開催で、前節から中2日・中3日の開

得点ランキング	アシストランキング
2: 芦野 翔斗 (神大) 高木 利哉 (神大) 伊東 純也 (神大) 中村 瞬 (関学大) 山田 悠策 (東学大) 星子 直哉 (平国大) 1: 全24名	2: 長野 祐太 (神大) 桂 大晴 (日体大) 白石 智之 (法大) 1: 全16名

催となる。開幕2戦では上位・下位の明暗が分かれるスタートとなっているが、連敗チームの巻き返しはなるか、そして神大をはじめとする好調スタートを切ったチームが波に乗っていくか。重要な3戦目だ。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第2節終了時)

順位	2部	神大	日体大	法大	関学大	東学大	日大	青学大	東農大	東洋大	平国大	拓大	産能大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失	勝点
1	神大		5/11	5/25	6/15	5/3	4/27	4/20	5/6	5/18	5○3	4/16	4○0	2	0	0	9	3	6	6
2	日体大	日体大G		4/26	5/25	5/6	4/16	5/17	5/3	6/15	2○1	4/20	4○1	2	0	0	6	2	4	6
3	法大	東洋大G	日体大G		5/17	6/14	5/11	4/16	1○0	4/20	5/6	3○0	5/3	2	0	0	4	0	4	6
4	関学大	日体大G	BMWス	青学大G		4/27	5/5	5/10	2○1	5/2	4/16	2○0	4/19	2	0	0	4	1	3	6
5	東学大	保土ヶ谷	ゼットエー	法大G	東洋大G		5/25	2○0	4/16	1○0	4/19	5/10	5/17	2	0	0	3	0	3	6
6	日大	三ツ沢陸上	海老名陸上	法大G	ゼットエー	産能大G		1●2	4/20	1○0	5/18	5/2	6/14	1	1	0	2	2	0	3
7	青学大	青学大G	青学大G	横須賀	保土ヶ谷	0●2	2○1		6/14	5/25	5/3	4/26	5/6	1	1	0	2	3	-1	3
8	東農大	駒沢陸上	保土ヶ谷	0●1	1●2	江戸陸上	上柚木	法大G		5/11	5/24	5/18	4/26	0	2	0	1	3	-2	0
9	東洋大	たつこ	日体大G	上柚木	横須賀	0●1	0●1	東洋大G	日体大G		4/27	5/6	4/16	0	2	0	0	2	-2	0
10	平国大	3●5	1●2	千葉東総	横須賀	産能大G	上柚木	味スタ西	千葉東総	東洋大G		6/14	5/11	0	2	0	4	7	-3	0
11	拓大	三ツ沢陸上	青学大G	0●3	0●2	たつこ	横須賀	日体大G	上柚木	千葉東総	産能大G		5/25	0	2	0	0	5	-5	0
12	産能大	0●4	1●4	BMWス	産能大G	ゼットエー	産能大G	ゼットエー	古河	海老名陸上	法大G	産能大G		0	2	0	1	8	-7	0

日本体育大学 vs 日本大学

4月16日(水)
17:50K.O.
海老名陸上

連勝スタートの日体大と、1勝1敗の日大との対戦。前節敗れた日大も内容的に悪くないゲームだっただけに、好ゲームが期待できる。

2戦目は2-1で平国大を下した日体大。1部リーグで2シーズンを過ごし、それなりにチーム力の高まりを感じさせる試合内容で、ボール保持能力と質の高いパス回しを見せて立ち上がりから相手を圧倒した。しかし、得点は相手GKのクリアミスをついた8分の先制点と、後半立ち上がりのFKからの追加点。欲を言えば、引き気味となった相手をしっかりと崩し、流れの中からの得点が欲しかった。さらに、55分にDF広瀬健太主将(4年)を負傷退場で欠き、62分、相手の2人同時の選手交代で流れが一変。75分に1点を許し、勢いを与えてしまった。「2点取って、安心してしまう状況があった。相手のリズムにははげなかった」(倉又寿雄監督)。より厳しく、90分プレーできるかどうか。

対する日大は前節、青学大に1-2で敗れた。前半は圧倒的にボールを持たれて攻め込まれ、PKを含む2失点を喫したが、後半は逆に選手交代から完全に主導権を握り、1点を返し、後半アディショナルタイムにはあわや同点というチャンスも作り出した。「前半、ボールを

持たれ過ぎた。せめて1失点に抑えていけば…」と城啓二総監督が話したように、後半はドリブル突破を含む相手ゴール前への推進力を持った選手を次々に投入してリズムをつかんだだけに、前半の失点が悔やまれる。それでも、「今年は走力には自信を持って臨んでいる」(MF中村雄太主将・4年)という日大の後半の戦い方は怖さを秘めており、今季の特徴だ。失点を最小限に抑え、拮抗した勝負に持ち込みたい。

＜昨年の対戦＞リーグ戦での対戦はなし

日体大		日大	
2. 高野	17. 高井	7. 廣田	
3. 広瀬	10. 阿部	9. 宇都宮	
18. 川戸		13. 中野	22. 浅野
1. 伊藤		20. 釣巻	
4. 桂		15. 山口	
29. ンドカ	7. 長谷川	19. 富山	2. 長谷川
11. 小山		33. 山本	
26. 福田		6. 中村	

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント
勇気は、努力が**つく**ってくれる。
部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
リクナビ 体育会

RECRUIT

青山学院大学 vs 法政大学

4月16日(水)
11:30K.O.
横須賀

1勝1敗の青学大と、2連勝の法大。お互いに攻撃力とボール回しの能力の高さが特徴で、昨季の対戦内容は美味なゲームとなっているが、今季の対戦はいかに。

青学大は前節、日大を2-1で下して今季初勝利を挙げた。前半は完全にゲームを支配し、シュート11-0と一方的に攻め立てて2点を奪ったが、逆に後半は運動量が落ちたこともあって日大に攻め込まれ、アディショナルタイムには危うく勝点1にとどまるかというピンチもあった。攻撃では、パスのテンポと前線の選手の動き出し、両サイドバックの攻撃参加など狙いとするプレーを随所に見せたが、「相手の選手交代によって、状況に合わせた守備をしなければいけない」(宮崎純一監督)というように、相手のテンポが変わった時への対応が課題。「昇格のためには波をなくすことが大事。戦う姿勢を強く持っていきたい」(DF服部真矢主将・4年)。

対する法大は、2試合で4得点、無失点。前節は拓大に3-0と快勝し、近年で見ても久々の連勝で最高のスタートを切った。テンポの良いパス回しに、狙っていたという大きなサイドチェンジを交えながら効果的に攻め込み、前半で2得点。後半も危なげなく1点を追加して勝利した。3点のうち2点は、流れの中から両サイドバ

ックが得点しており、「うまく連動できているから(SBが)点に絡んでいけたと思う」(DF星雄次主将・4年)。「ボール回しは巧いが、シュートの意識が足りていないと感じた」という長山一也監督の指導のもとで、昨季までの課題が改善されつつある。しかし「僕らは2部7位のチーム。驕らずこれを続けていくことが大事」(長山監督)。良いムードを持続させたい。

<昨年の対戦>前期/青学大4-1法大、後期/青学大5-3法大

青学大		法大	
6. 服部	11. 恵	16. 青島	6. 星
5. 京谷	8. 後藤	4. 清水	27. 山田
1. 高橋	27. 角宮	26. 伊藤	12. 袴田
14. 伊藤	10. 関谷	25. 西室	
3. 御牧	7. 荒木	10. 高橋	22. 田代
2. 堤		14. 白石	2. 永戸

関東学院大学 vs 平成国際大学

4月16日(水)
13:50K.O.
横須賀

連勝スタートの関学大と、連敗スタートの平国大との対戦。勝負強さの出た関学大に対し、平国大は連敗を止めることができるか。

前節の関学大は、東農大と対戦して90分に勝ち越し点を奪う2-1の勝利。「昨季からの改善が見られた。最後まで勝点3を取るという気持ちを切らさずやってくれた」と石村大監督が評価したように、拮抗した試合を勝ち切る勝負強さを見せたことは、昨季からほとんど主要メンバーが変わらないチームとして積み上げてきた経験が感じられる。初戦に続き、前半の早い時間帯で先制点をゲットしていることも、チーム全体の流れを良くしている要因だろう。前半で同点を許したが、その後も攻撃では前線の2人が常に相手DFの裏を狙う動きを繰り返し、相手を焦らすことに成功した。決して大量点を取るチームではないが、堅実に得点を積み重ねていく力がついたことを感じさせるだけに、楽しみな存在だ。

一方の平国大は前節、日体大に1-2で敗れた。前半は日体大のボールポゼッションに対し、引き気味の対応となってしまったが、後半は前線からのプレスが機能し始め、62分に2人の選手交代をしてからはショートカウンターから相手ゴール前へ攻め込むシーンが続いた。

75分に1点を返し、残り時間も押し込んだだけに、前半、GKのクリアを無人のゴールに決められた先制点と、後半開始直後のFKからの失点が悔やまれる。「流れの中からやられたわけではないし、最後まで攻める姿勢を見せてくれたのはよかったが、前半からもっとやるべきだし、やれると思う」(西川誠太監督)。上位進出を狙う今季、不要な失点をいかに減らしていけるか。

<昨年の対戦>前期/関学大3-0平国大、後期/関学大4-1平国大

関学大		平国大	
4. 久保	8. 普光院	7. 柏俣	11. 千葉
2. 吉田	9. 富樫	26. 小松崎	
7. 太田		15. 堀越	
1. 井田	10. 土館	10. 堀越	3. 深井
3. 原島	33. 萱沼	25. 猪瀬	1. 荒川
11. 中村		5. 鎌田	
32. 木村		29. 木曾	2. 増田

東京農業大学 vs 東京学芸大学

4月16日(水)
15:30K.O.
江戸陸

2試合とも1点差負けの東農大と、決して多くはないチャンスをモノにして無失点で連勝を飾った東学大。接戦が予想されるが、勝ち切るのはどちらか。

終盤の失点で開幕戦を逃した東農大は前節も、90分に勝ち越し点を許して関学大に1-2で敗れた。試合終盤での得点は、昨季は東農大の真骨頂であったが、今季は流れが逆になってしまっている。昨季も第3節で連敗を止めているだけに、ここから流れを変えていきたい。前節の関学大戦は拮抗した試合内容。8分という早い時間帯での失点は課題だが、すぐに反撃にかかって22分に追い付いた。トップにボールを預け、そこから落としてゴールにつなげる理想的な形であったが、「自分たちの時間帯にもっとチャンスをつかみかけた」(木村俊夫コーチ)というように、一気に逆転に持ち込みたかった。また、試合終了間際のトーンダウンはやや気になる。連敗を止めることができるか。

対する東学大は、2試合とも無失点勝利という好スタートを切っている。特に、苦しみながらも無失点でしのご、勝点3につなげていることが大きな収穫だ。前節は1部リーグから戻ってきた東洋大を相手に、PKで奪った1点での勝利。シュート数も3-4と、やや盛り上が

りに欠けたゲームではあったが、「内容はともかく、我慢しなければならぬゲームで勝点を取ったことが良かった」と檜山康監督も評価した。東洋大にボールを持たれる時間も長かったが、堅実なDFラインコントロールからオフサイドでピンチの芽を摘んだ。勝ち切れないことがここ数年の課題だっただけに、まずは結果を重視しつつ、攻撃のバリエーションも増やしていきたい。

<昨年の対戦>前期/東農大1-2東学大、後期/東農大1-0東学大

東農大		東学大	
3. 加藤	8. 佐々木	18. 久保	5. 廣木
5. 櫻岡	25. 金	10. 佐々木	4. 脇本
1. 矢口	13. 岡庭	14. 平田	1. 須賀
7. 和氣	29. 村山	8. 菅	
15. 小田原		9. 山田	23. 永井
11. 井上		7. 佐藤	16. 富澤
2. 中西			

神奈川大学 vs 拓殖大学

4月16日(水)
15:30K.O.
三ツ沢陸上

こちら、連勝チームと連敗チームとの対戦。首位に立つ好調の神大と、まだ自分たちのリズムがつかめない拓大。チーム状況がそのまま出してしまう試合となるのか、はたまた昨季は神大から大量得点を奪っている拓大が意地を見せられるか。

2試合で実に9得点を奪った神大。初戦の3失点を教訓に、前節の産能大戦では相手を無失点に抑え、4-0と大勝した。昨季から、もともと高い得点能力は持っていたチーム。それだけに、前節は守備面の改善にプライオリティを置き、MF前田柊(3年)とMF武田将平(2年)のダブルボランチを中心に守備の意識を高めてきた。松永道敬総監督は、快勝にも「課題は常に守備。相手に自由に前を向かせないよう、もう少しきっちり守り切れるようにしたい」と話した。一度崩れ始めると大崩れにつながってしまった昨季の反省を生かし、気を引き締めているようだ。攻撃力はFW伊東純也(4年)を中心に絶好調だけに、連勝を伸ばすことができるか。

対する拓大は前節、法大に0-3と完敗を喫してしまった。昨季、攻撃の中心にいたエースストライカーが抜けたこともあるが、今季は未だ無得点。もともと攻撃に定評のあるチームだけに、その力を試合で出せないジレ

ンマが感じられる。早いパス回しを見せる時間帯もあったが、相手のプレスの前では正確性に欠けた。玉井朗監督が「運動量が少ないし、プレッシャーをかけに行く姿勢も消極的」と話したように、受け身になってしまっているのが気にかかる。また、失点の仕方ミス絡みと今は悪いことが重なっている。まずは気持ちを切り替え、思い切りの良いプレーを見せたいところだ。

<昨年の対戦>前期/神大2-5拓大、後期/神大2-2拓大

神大		拓大	
3. 高木	11. 星	26. 新山	
29. 南	14. 芦野	2. 谷川	13. 三浦
6. 前田		22. 小島	
12. 黒沢		11. 西岡	12. 夏井
16. 武田		8. 菅能	31. 宗像
5. 杉山	10. 伊東	5. 高橋	
7. 長野	22. 伏木	16. 大森	25. 穂積